

観光スポット及びマイカー・ボランティアガイドの
ネットワークによる観光開発
ー平和でつなぐ出水の鶴・特攻・武家屋敷ー

1. はじめに

地方・地域の創生・活性化はいまや喫緊の課題である。政府も本腰で取り組み始めている。各地方・地域には埋もれた観光資源や小さな観光スポットがたくさん存在している。しかしながら、それぞれの観光スポットがばらばらに宣伝され、ボランティアガイドもばらばらに活動している。

ここ出水市も例外ではなく、全国的に有名な鶴の観光に重点が置かれているが、鶴は季節もので、11月から3月までの5カ月間である。さらに、出水には鶴だけでなく、出水海軍航空隊の遺跡が多数残存しており、特攻碑公園もある。また麓にある武家屋敷群も全国的に珍しいスケール（100軒以上）で残存している。

現在、それらの観光地はばらばらにPRされており、ボランティアガイドも別々に組織されている。平成25年度の観光客は、鶴観光が約5万4千人、武家屋敷が約4万6千人で約10万人程度である。特攻碑はデータさえ存在していない。

出水市観光交流課は農家民泊等で頑張っているが、積極的かつ総合的な観光開発は不十分であると感じている。さらに出水市には、薩摩街道や野間の関所はじめ亀井山城や俊寛僧都の碑等々多くの未開発の観光資源も存在している。

私は、当面、バラバラに展開されている「つる・特攻碑・武家屋敷」の3大観光スポットをつなぎ、アクセスだけでなく、ひとつの物語を創出することにより、観光客を増やすことができると考えている。私は、特攻碑と武家屋敷のボランティアガイドを経験してきたが、出水市は「平和都市宣言」をしており、「平和」という現在より重要性を増している大切なコンセプトに基づき物語を創造し、ボランティアガイドのネットワークによる金のかからない自家用車サービスによる観光開発を提案したい。このアイデアは、全国各地の地方・地域で容易に実現できるモデルになる可能性を秘めている。全国各地には、歩くには遠いし、タクシーでは高すぎる観光スポットが多数存在し、観光客の低迷に悩んでいる地域が多いはずである。

2. 「平和」の物語の創出

観光スポットを、あるテーマ・コンセプトによりつなぐことが重要である。観光地をバラバラに羅列してPRするだけでは、訴求力が弱いのである。

出水の「平和」の物語は、平和と長寿、幸運のシンボルである鶴から始まる。鶴は昔話にもよく登場し、古来から愛されてきた。日本だけでなく欧米でも「神秘の鳥」「幸運のシンボル」として親しまれている。日本の楽曲には、能の「鶴亀」をはじめ尺八、箏曲、長唄等で、多くの作品がある。現在、つる観察センターやクレインパーク（つる博物館）は、つるの生態を中心に展示されているが、もっと文化的精神的側面にも力を入れるべきであ

る。

次に武家屋敷であるが、出水麓の武家屋敷は、100 件以上の武家屋敷が、江戸時代そのままに残されており、年々観光客も増えている。薩摩藩は、「外城制度」というユニークな制度を取り入れ、天守閣のある立派な城はつくらず、武家屋敷群を各地に 120 か所以上つくり、城の代わりとした。いわゆる「半農半士」で「郷士」と呼び、平時は農業や養蚕を営み、戦時に備えて武芸の訓練も怠らなかった。出水は、肥後藩との境にあり、薩摩藩は、特に有能な武士をここに住ませ、県境を守る要崖とした。この武家屋敷もまた、平和な江戸時代を象徴する遺跡である。

最後に、「特攻碑公園」は、昭和 18 年出水海軍航空隊が設置された中心にあり、最初は訓練基地であったが、昭和 20 年戦局が逼迫するにつれて、作戦基地となり、260 名の特攻隊員が、フィリピンや台湾、沖縄等の南方の海に散っていった。掩体壕や地下作戦基地、発電所跡など、多くの戦争遺跡が手つかずのまま残されている。出水市は、現在 5 年かけて戦争遺跡を保存し、活用するための施策を実行中である。これもまた、貴重な戦争遺跡であり、平和の尊さを胸に刻むためにさらに有効な活用が求められている。

「はじめに」で述べたように、現在、これらの観光スポットは別々にボランティアガイドが養成され、ばらばらに観光PRされている。「平和都市」として、この3つの観光地を現在切実な課題となりつつある「平和」尊重の物語として再編集し、観光開発すべきことを提案したい。

3. アクセスとボランティアガイド

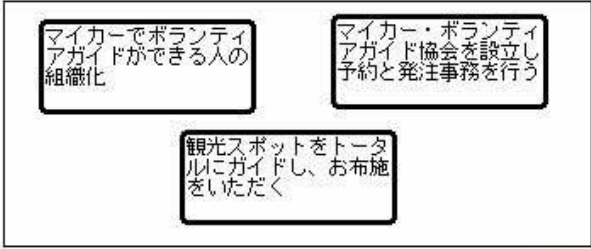
さらに、この3つの観光スポットを平和でつなぐだけでなく、各ボランティアガイドを一本化し、3つの観光ガイドをトータルに紹介できる人材を養成すべきである。そのうえで、アクセスの問題を解決するために、ボランティアガイドが自家用車で案内できるようにする。ボランティアガイドは、ガイド料として寸志をいただくようにする。この3つの観光案内の所要時間は2~3時間必要である。現在、出水市では、12月から2月末までの3か月間限定で、「ツル観光周遊バス」を1日2便(午前・午後)運行している(有料1200~1400円)が、便数も少なく、季節限定で不便である。

私の提案は、年間を通じていつでも、だれでも、何人からでも受け付け、ボランティアガイドが有料(お布施)でガイドするものである。自家用車はサービスである。ツルのいない時期は、クレインパークに案内する。この案を実現するためには、「マイカー・ボランティアガイド協会」を設立し、トータルにガイドできる人が10名もいればスタートできる。ガイド協会の仕事は予約事務と発注のみである。

大きな夢・アイデアも大事であるが、地道なボランティア活動から生まれる、地味で容易に実現できるアイデアもこれからは重要になってくると思われる。

観光スポット・マイカー・ボランティアガイドのネットワークによる観光開発

マイカー・ボランティアガイド協会を設立し、いつでもマイカーでガイドを行う



出水のつる・武家屋敷・特攻碑公園をつなぎ
平和の物語を創出し、ガイドする

各地域の観光スポットを、あるテーマ・コンセプトにより
つなぎ、物語化する

